

年 組 名前：

小学生が商い学び実践 南ア

南アルプス・豊小の児童4人は17日、同市小笠原のパン店「ルーブル」の店先で、レモネードの販売を体験した。法源寺（同市十五所）住職の横山瑞法さん(41)が「子商塾」と題し、子どもたちに実践を通じてお金や商いについて学んでもらおうと企画した。

体験したのは3～6年生の4人。4月末から粗利益について学んだり、レモネードを試作したりして準備を進めてきた。4人は友人や家族にチラシを学校で配布するなど宣

伝活動にも取り組んだ。17日は近隣住民や保護者らで10人ほどの行列ができ、76杯を売り上げた。

参加した6年の花輪栄翔さんは「粗利益を考えて価格設定するのが難しかった。多くの方が買いに来てくれてびっくりしたが、うれしかった」と笑顔を見せた。横山さんは「子どもたちが商いの楽しさを知り、地元地域の未来を担うきっかけにしてほしい」と話した。

〈井村賢紳〉

(2023年6月24日付 山梨日日新聞 19面)

【 記事を先生や家族に読んでもらうか、自分で読んだ後に、答えてください 】

問1

豊小の児童4人は、どこで、なにを販売した体験をしましたか。

・どこで： ・なにを：

問2

住職の横山さんが、「子商塾」を企画した理由を、答えてください。

.....

問3

粗利益について、説明してください。

.....